



卷頭言

久保, 雅義

(Citation)

海事資料館研究年報, 30

(Issue Date)

2002

(Resource Type)

other

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005723>



巻 頭 言

海事資料館館長 久保雅義

いよいよ統合の年となりました。大学は平成15年10月に神戸大学と統合いたします。この中で神戸商船大学の図書館も神戸大学の分館となることが決まりました。海事資料館は今まで図書館の附置施設と位置付けられてきましたが、統合後は図書館とは切り離されて、学部の附置施設となります。

海事資料館は現在は神戸商船大学海事資料館ですが、統合後はどのような名前にするかについて検討しました。海事科学部の名前も入れては如何かという意見もありましたが、長すぎるので神戸大学海事資料館という名前でいくことにしています。

今年1年を振り返れば、プレハブ収蔵庫の整理が動き始めたことが挙げられます。昨年収蔵庫の整理が進まないということで、館長としての仕事始めとして、収蔵庫の中に整理場所確保を行いました。これが終わってから、いよいよ中の資料整理ということになりましたが、なかなか話が進まず困っていました。

白鷗会・深江同窓懇親会の席で一期生の三浦白鷗会会長にOBの中で資料整理をやってくれる人を探して欲しい旨のお願いをいたしました。その後三浦会長には積極的に動いていただき、現在一期生の三浦敏夫氏、中林正人氏、高寄伸氏の御三方に毎週二回来て頂いて、随分整理が進んでまいりました。埃を拭き取り、並べるとその資料が持っている本来の輝きを取り戻されて目を見張るばかりです。次はこの整理された資料をデジカメに収め、解題をつけて、海事資料館のデータベースに組み込む必要があります。このように海事資料の整理が進みますのも、三浦敏夫氏、中林正人氏、高寄伸氏の御三方のボランティア精神によるところが大きく、心より感謝しています。

現在、海事資料館の中の資料説明は日本語によるものしか添付されていません。最近は本学の国際交流の進展と共に資料館にも外国の方々の訪問が増えています。これに伴い英文での資料説明が求められていますが、これについては石田憲治先生が快く引き受けてくださり、近々整うものと期待しています。

平成14年末には恒例となっている海事資料調査を行うために長崎の三菱造船所史料館と海上自衛隊佐世保史料館を訪問しました。三菱造船所史料館は全ての建造船に通し番号が付けられており、時代と共に造船技術がどのように進展してきたかが非常に分かり易く展示されていました。中でも圧巻はタービンの爆発事故についての検証でした。それへの対応が良かったためにそれを契機として多くの注文がきた等の説明コーナーには感動しました。時あたかも建造中の客船火災で多くの方々がショックを受けていた時だけに、今回も前の教訓を活かして苦難を乗り越えて行くだろうことを確信すると共に、心強く感じた次第であります。

自衛隊史料館では我国の海軍の歴史も含めて、全てが分かりやすく展示されていました。ここでは昭和10年から20年までの日米の経済比較をグラフで示していました。今見れば如何に無謀な戦いであったかが、良く分かりますが、我国は現在もこれと似たことを今でもやっています。

このように2箇所の史料館は私に感動と考えるきっかけを与えてくれました。訪れる人とその時の状況により思いは異なると思いますが、多くの人々が形は違っても有益な何かに出会える場へすべきだと言うことを感じました。

特に平成15年は統合で本学の歴史的節目の年でもあります。その意味では本学の長い歴史が分かるコーナーを設けることも必要ではないかと考えています。是非検討してみたいと考えていますので御協力のほどをお願いいたします。